

## 会 議 録

会議名	令和4年度第2回東浦町文化財保護審議会	
開催日時	令和4年10月28日（金）午前9時30分から正午まで	
開催場所	緒川コミュニティセンター 講義室	
出席者	委員	石原弘幸氏、河合美三男氏、鈴木勝美氏、鬼頭秀明氏、田中央氏、福岡猛志氏
	事務局	庄子教育長、石川教育部長、佐東生涯学習課長、楠文化財係長、前田主事
欠席者	高部淑子氏	
議題等	1 開会 2 あいさつ 3 緒川村郷蔵について 4 天白遺跡ひろばPR動画について 5 その他	
傍聴者の数	なし	
審議内容	<p>◆開会 次第に従い会議を開会。</p> <p>◆あいさつ 石原会長が秋の祭礼、秋の企画展、天白遺跡ひろばPR動画等に触れあいさつ。 続いて教育長が、体育祭や林間学校等の学校行事、町マラソンイベントや駅伝大会に触れあいさつ。</p> <p>◆事務局 協議に入る前に、議題にある緒川村郷蔵について現地見学を行う。</p> <p style="text-align: center;">《緒川村郷蔵 現地見学》</p> <p>以降は会長が議事を取り回す。</p> <p>◇会長 次第に従い議事を進める。 次第3「協議事項（1）緒川村郷蔵について」</p> <p>◆事務局 資料1に基づき郷蔵の今後の取扱いについて、町の現在の考え、案について説明。 現在、建物の記録を残すために図面作成の業務を実施している。平面図や断面図作成のほか、併せて後のどのように改修があったかわかる範囲で概略のような調査も行っている。</p>	

(1) 緒川村郷蔵の現状について、約2m東、緒川コミュニティセンター側や児童館側に下がらなければならず、建物をそのまま東に動かすにしても緒川児童館との距離が2、3mとなってしまう、接近距離を考えると現地での保存が難しい。建物自体、屋根の雨漏りのため屋根の野地板や垂木が腐食しており、柱は随所にいくつか虫食いも見受けられ、構造的に良い状態とは言えない。屋根は部分的な修理が難しく、修理する場合は全面的に改修する必要がある。建物の状態が良くないため曳家での移築も難しい。建物の来歴等から現在の敷地外では意味がなく、適当な移築場所はないといった状況である。

(2) 今後の取扱いについて、町の案としては建物の解体は致し方ないと考えている。ただ、解体して終わりではなく、跡地の利用として郷蔵がもつ黒壁の景観を大事にし、郷蔵のあった場所に使われていた黒壁（下見板張り）を利用して、旧道側に黒壁を模した黒い塀を作れないかと考えている。

◇委員

法的な関係で、町がこういう方針を定めたが文化財保護審議会としてはこれでよいかと諮問があったと考えるのか、それとも、審議会独自の見解を自らまとめて表現するというのか、決定する権限は審議会ではなく行政機関にあるということによいか。諮問ならば答申であるし、そうでなければ意見として述べる、まずは形式をはっきりしていただきたい。

◆事務局

手続き上の問題で申し上げると、諮問ではない。町の方向性については、先程申し上げたとおり。広く皆様の意見を伺いたい。

◇委員

議論したということが大事である。文化財保護法が改正され、(答申等ではなく) 審議会が指導的な意見が述べられるようになった。これまで議論し、調査してきたことに対し、このような議論があったという記録も残してもらえると良い。

◇委員

なんとか残せないかという議論は散々行ってきたということは記録に留めておいていただきたい。

◇委員

他にはどのような使い方をしているのか、郷蔵のある地域への調査も行い、検討してきた。その結果、この状況ではなんともならないという話も出てきて、それならばしっかりした図面を起こしておかなければいけない、あるいは部材はどうするのか、どのようにして保管していくのか、それらを考えていかなければならないというところで、今まで議論

を行ってきた。前回の話として、町としてどのように考えているのか考えを示してほしいとの意見もあり、今回に至ったところである。

◇委員

解体は決定の方向でここまできたということであれば、ここから先の話をするしかない。曳家が難しく、2m移動させても児童館との問題があるとなるともう解体しかないのではないか。

◇委員

古文書の中から郷蔵に関する資料がないか探してみたところ、生路村に2点確認できた。それらから、建物自体というよりも防災という役割を担ってきたという歴史がそのまま形としてあるということが貴重である。そのまま残すのは難しいということで取り壊しはやむを得ないが、雰囲気だけ残すのではなく、本当の意味の防災という観点から歴史的な役割を果たしてきたものだということを伝える貴重なものである。雰囲気+防災倉庫を作りその上に黒板塀の形だけ被せるような業者案が個人的には良いと思った。郷蔵という名前と外観を残した第2、第3の防災倉庫を作ってはどうかと思った。何百年の歴史を受け継げるのではないか。一目見て防災の歴史を語り継ぐものが欲しいと思うところである。

◇委員

「昔の郷蔵物語」のような形で文章や写真で残し、流行りの読み聞かせのDVDにして記録に残しておくと思う。黒壁も景色がミスマッチになってきている。今でこそ黒壁だが、街並みを見て行った時に、今後の街並みを昔に戻すように建て直していくよう指導していくのであれば、黒壁でも良いと思うが、周りが囲いで住宅地が建った中でぽつんとあるものをどのように継承していくのが課題である。好きな人が調べ、学校でも副読本として使い伝えていくなど、冊子やパネルができるように継承していけるのではないか。

◇委員

高い黒塀が続くというのはあまりイメージがわからない。何かをそこに残すということについて工夫が必要であるという意味で賛成はしている。防災倉庫の話は案の1つとしては面白いと思う。

◆事務局

緒川コミュニティセンターの前の児童館内に防災倉庫の役割を果たしている部屋があり、防災用のものが入れている。役場東側の旧給食センターがあった場所や緒川新田地区にも防災倉庫を建てる等、地区によって倉庫を整えてきている。

◇委員

以上からもやはり解体はやむを得ないのかと思う。その後どうするのか、皆様にもそれぞれの思いもあることと思う。そこに郷蔵があったと何か欲しいという思いはあるところである。

◆事務局

今後の取扱い案について補足説明。

更地になった所に黒壁を模した黒い塀を立てるという点について、郷蔵がなくなってしまうとすぐ横が児童館で道路と接してしまうため、何かしらフェンス等囲いを作らないと子どもたちが危ない。殺風景なフェンスを立てるのであれば部材を活用することを考えている。塀というよりフェンスのイメージである。

◇会長

次第4「報告事項（1）天白遺跡ひろばPR動画について」事務局へ説明を求める。

◆事務局

資料2に基づき天白遺跡ひろばPR動画について説明。

緒川小学校の児童を対象に夏休みの自由応募課題として、天白遺跡ひろばのPR動画の作成を依頼。最終的に16点23人から応募があり、2・3年生の部、4・5年生の部、6年生の部に分けて審査を行った。事前審査を職員で行い、審査会を開催し、最優秀賞、優秀賞それぞれの部で1点選んだ。今後、町のHP等で11月をめどに期間限定で全作品を公開し、賞を取った作品については常時公開を予定している。時間の都合上、最優秀賞の作品を1点ご覧いただく。6年生の部、3人のグループで作った約5分の作品である。

天白遺跡ひろばや入海貝塚を巡る文化財散策ルート案について、前回会議でいただいた意見をもとに、現在シンプルなコースと緒川城を中心とした広域なコースの作成を進めており、12月中には緒川コミュニティセンター前の看板の作成も進める予定で動いている。

《天白遺跡ひろばPR動画 最優秀賞上映》

◆次第5「その他」について事務連絡。

11月22日～12月27日の期間、空調機更新工事のため、資料館が休館となる。27日以降は年末年始の休みとなるため、資料館開館は年明けの1月5日からとなる。

文化財消防訓練については、令和5年1月22日（日）午前9時30分から郷土資料館にて行う。後日案内を送付するので、可能な方は参加願う。

現在開催中の秋の企画展の展示解説パンフレットを配布させていただいた。またお時間ある時に足を運んでいただければと思う。

◆事務局

本日の会議日程をすべて終了した旨を告げ閉会とする。

備考

なし